

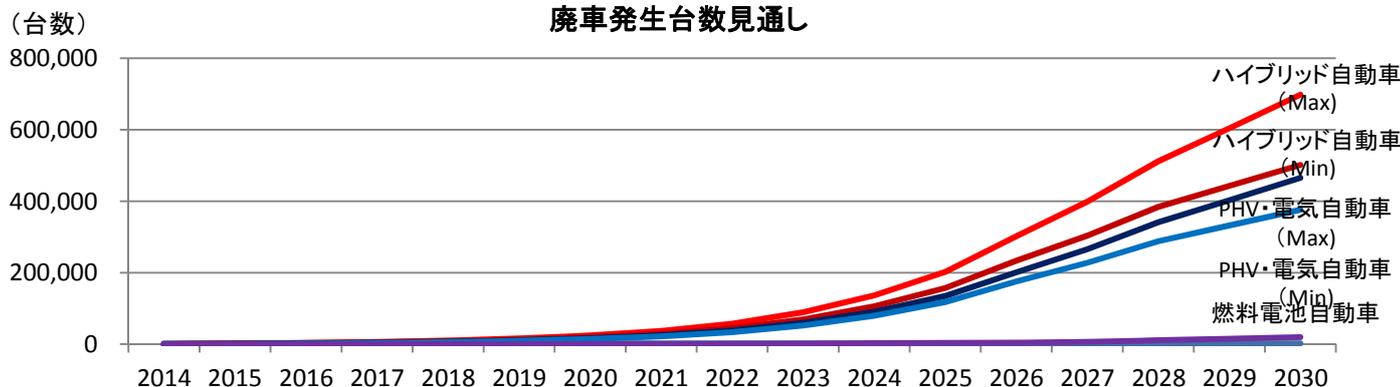
次世代自動車の状況について

資料5

1. 次世代自動車の普及・廃車発生予測

		ハイブリッド自動車	プラグイン・ハイブリッド自動車	電気自動車	燃料電池自動車
保有台数(2013年度)		283万台	1.7万台	2.5万台	—
新車販売台数 ※1	2020年見通し	100~150万台	75~100万台		~5万台
	2030年見通し	150~200万台	100~150万台		~15万台
廃車発生台数 ※2	2013年実績	0.6万台	0.01万台		—
	2020年見通し	1.9~2.4万台	1.4~1.6万台		0.04万台
	2030年見通し	50~70万台	38~47万台		2万台
【参考】中古車輸出台数(2013年実績)		3.3万台	0.01万台		—

廃車発生台数見通し



※1 新車販売台数(見通し)は、年間販売台数を500万台とし、「次世代自動車戦略2010」の政府目標普及率の最大値、最小値を適用。
 ※2 廃車発生台数(見通し)は、販売経過年毎の廃車発生率から算出。

2. 既存車に使われていない部品の例とそのリサイクルの方法

	Li-ion/Ni-MH電池	モーター	燃料電池スタック	水素タンク
使用車種	HV、PHV、EV、FCV	HV、PHV、EV、FCV	FCV	FCV
主な素材・含有レアメタル等	リチウム、コバルト、ニッケル(正極材)	ネオジウム、ジスプロシウム(磁石)	白金(触媒)	CFRP
1台当たりに含まれる含有メタル(kg)	コバルト:約2kg(※1)	ネオジウム:約0.3kg(※1) ジスプロシウム:約0.05kg(※1)	白金:約10g(※2)	—
ELVリサイクルによるポテンシャル(kg)【国内総需要量に占める割合(%)】	コバルト:約1600ton【約10%】(2025年時点)(※1)	ネオジウム:約260ton【約4%】(2025年時点)(※1) ジスプロシウム:約42ton【約6%】(2025年時点)(※1)	白金:約200kg(2030年時点)(※2)	—
現行(もしくは想定される)リサイクル方法	○資源としてリサイクルもしくは定置用電池等でリユース。 ○各メーカーで回収スキームを構築。	○資源としてリサイクル。	○解体事業者で回収し、有価で流通することを想定。	○ニブラで層化、電炉で適正処理する手法を確立。今後は破砕機、ASR処理施設での処理方法を検討。
課題等	○使用量削減・代替材・再資源化の技術開発及び実用化に向けた実証の促進 ○使用済物品の回収量の確保 ○リユース活用推進に向けた取組(残存性能評価の手法確立等) ○関係事業者等への情報提供の促進 ○海外資源の安定的な確保	○使用量削減・代替材・再資源化の技術開発及び実用化に向けた実証の促進 ○使用済物品の回収量の確保 ○関係事業者等への情報提供の促進 ○海外資源の安定的な確保	○使用量削減・代替材・再資源化の技術開発促進 ○関係事業者等への情報提供の促進 ○海外資源の安定的な確保	○再資源化の技術開発促進 ○回収・再資源化の仕組み作り

※1 一台当たりの含有量、リサイクルによるポテンシャルは「産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会 中間取りまとめ(平成24年9月)」より引用。
 ※2 一台当たりの含有量、リサイクルによるポテンシャルは「燃料電池推進協議会 報告書(平成19年1月)」より経済産業省作成。